



小金井祭のごみの減量～ごみから始めるエコ意識～

青空教室

青空教室は、小金井祭で出るゴミを減らすことを目的に活動している団体です。活動を通じて、小金井祭のゴミ減量だけではなく、小金井祭の環境負荷の低減、さらには、日常生活でもゴミを減らそうという意識を多くの人に持ってもらうことを目的としています。

エコ容器の導入

食品を扱うテント団体に、エコ容器の利用を呼びかけ、プラスチック容器などよりも環境負荷が小さいエコ容器を導入することで、参加団体や利用者に、環境問題を身近に感じてもらおうきっかけとしました。

今年度導入したエコ容器



▲ボウル



▲フードパック

■エコ容器とは■

- ・ケナフやアシ（草）
 - ・バガス（さとうきびの搾りかす）
- などでできた容器のことです。

発注先：北川化成（株）滋賀工場

結果として4団体が5350個の容器を導入し、昨年度の2100個を大きく上回りました。

エコ箸の導入

大学生協で日頃使われている割り箸が、環境に優しい国産の間伐材割り箸（以下、エコ箸）なので、大学生協と協力し、割り箸を大量に消費する小金井祭で導入しました。エコ箸を利用する団体には、事前に割り箸や森林について説明する勉強会に参加してもらい、エコ箸を使うことで環境に配慮した行動ができることを理解してもらいました。

エコ箸の導入数が、昨年度は7団体8200膳でしたが、今年は9団体11300膳と導入団体数を増やすことが出来ました。勉強会の内容についても、導入団体に楽しんでもらえるような参加型形式にしたことで、参加者にとって、分かりやすく楽しめるものになったようです。

割り箸リサイクル

割り箸リサイクルは昨年度から実施された企画です。小金井祭では、毎年大量の割り箸が「可燃ゴミ」として捨てられていました。これを、「割り箸」として分別し、リサイクルを行うことで、ゴミの直接的な減量につなげられ、新たな資源へと生かすことができます。また、各団体や学生にも分別に協力してもらうことで、環境意識を高めることができると考えました。青空教室では、割り箸の回収箱（割り箸Box）の製作、設置と使用済み割り箸

の回収、リサイクルを行いました。その結果、今年度小金井祭で回収した割り箸の重量は、134.8 kg（約 27,000 膳）でした。これは、学芸大学の生協施設で、日常的に使われる割り箸の約半年分に相当します。

■ 樹恩割り箸 講演研修会 ■

10月4日に「知りたい！聞きたい！JUONのお箸！」と題して研修会を行いました。当日は、青空教室のメンバーだけでなく、東京農工大学の学生も参加しました。



▲講師をしてくださった
鹿住さん

JUON（樹恩）NETWORKの鹿住貴之事務局長を講師としてお迎えし、割り箸・NPOで働くことについてお話を伺いました。JUON NETWORKの森林保全活動についてお話を聞き、間伐や箸について、理解を深めることができましたと思います。



↑パワーポイントを使用しての説明
質疑応答の時間も→



ゴミ分別ナビゲーター

ゴミ分別ナビゲーターは、一昨年から行っている企画です。ゴミ箱の横に立って、分別を呼びかけます。ゴミを捨てる人自身にゴミを分別してもらうことで、ゴミ分別の意識が啓発されること、また、ナビゲーターの存在によるゴミの分別率向上とゴミ箱周辺の環境美化を目指しました。

小金井祭期間中、屋外のゴミ箱2ヶ所において、ナビゲーターを設置しました。ナビゲーターは、青空教室のメンバーだけでなく、学生のボランティアも募集した結果、25人が参加しました。ボランティアの学生にも何かしらの変化をもたらしてくれていればよいと思います。

■ ナビゲーター・カラーテープゴミ箱 ■

普通のゴミ箱よりカラーテープゴミ箱のほうが、分別が非常に分かりやすく、お客さんにとっても分別しようと思わせるようなものだと思います。（ボランティアより）



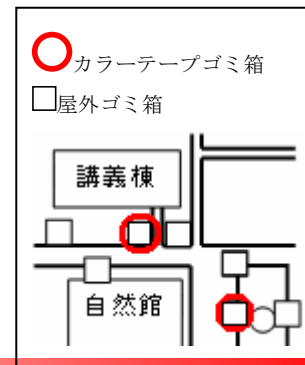
ゴミ箱改善

これまで、小金井祭のテントゾーンに設置されているゴミ箱は、背が低く、分別表示が見にくいため、分別率が非常に悪かったと思われます。このゴミ箱を見やすく改善することによって、来場者がゴミを捨てる際、分別に戸惑わないようにしました。色をはっきり示

すことで、分別していることをよりわかりやすくするため、ダンボールゴミ箱の上部に、ゴミの種類に対応したカラーテープを巻いたものを製作し、右図の2ヶ所に設置しました。

製作したゴミ箱は当日分12個、予備分36個です。

(予備分は、当日分が雨などで破損した場合の交換用)



ゴミ調査

小金井祭で出るゴミの実態を把握するために、3種類の調査を行いました。

①ゴミ総量調査 (以下総量調査) : 青空教室の活動の成果を、数字で確認するために、小金井祭で出たゴミの総排出量を調査し、昨年度の調査結果と比べ、総排出量の増減を調べました。

②ゴミ分別率調査 (以下分別率調査) : 今年度のカラーテープゴミ箱が分別に与える影響を調べました。

③団体内のゴミ分別率調査 (以下団体の分別率調査) : 臨時集積場に団体 (テント使用団体・講義棟教室使用団体) がゴミを持ってきた時、各団体の分別状況を調べます。

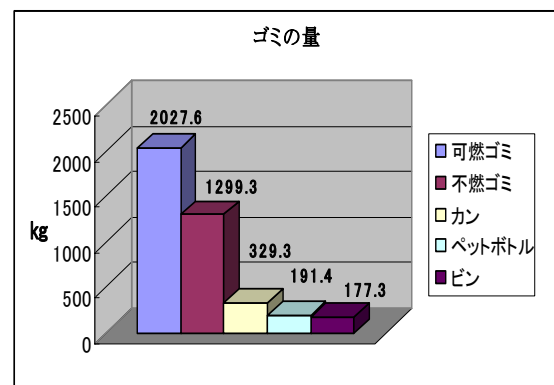
<結果>

①総量調査

小金井祭期間中に排出されたゴミの総重量は、6985.9kgでした。小金井祭期間中に排出された可燃ゴミは、普段、大学で1日に出る可燃ゴミの2.2倍であり、同じく不燃ゴミは2.6倍でした。

②③分別率調査

調査過程において不具合が生じたため、正確な調査を行うことができませんでした。



展示

今年度、「スーパーEcolympic (エコリンピック)」と題した展示活動を行いました。

日常生活で当たり前のように行われている買い物を通して、各商品にどのような環境への影響があるのかを来場者に知ってもらい、普段の買い物について考えてもらいました。



多くの家族連れや子どもたちが訪れましたが、大人向けの内容でしたので、子どもたちには少しわかりにくかったようです。



感想を書いて貼ってもらいました↓



いろいろな商品について、
どんな過程でできるのか、
環境にどう影響があるのか
などを学びます。

このような展示を見ることによって、一般来場者の方々が日常生活を振り返って見つめ直し、何かを変えるきっかけを提供できたと思われまます。

まとめ

今年度はどの企画においても「連携・協力」が大きな力をもった年となりました。「学芸大生がひらくサステナブルな未来プロジェクト」に採択されたことにより、各企画に必要な備品購入など活動環境の面で大きく援助を受けることができました。エコ箸についての講演会を開催できたことは、大きな成長への第一歩だと思われまます。さまざまな面で、有志団体として細事に心配することなく活動を行うことができました。

また小金井祭実行委員会や、大学生協とも連携が深まっており、小金井祭へ向けての連携はもちろん、青空教室の活動の一つの目標である「小金井祭から日常へ」を実現するために、少しずつ歩んでいるところです。

ゴミを減らすためには、そして環境をよくするためには、青空教室だけの力だけではなく、多くの人と協力しながら一緒に取り組まなければならないと思います。そのことを、活動を通して青空教室のメンバーも、体感できたのではないのでしょうか。

発足から 3 年目、小金井祭での分別意識が強まったとの印象を大きく受けました。しかし、青空教室の本来の目的であるゴミ減量に関しては、その意識はまだ薄いようです。まだまだ団体としては未熟な青空教室ですが、今後その目的に向かい、いかに工夫し活動を継続させられるか、それが今後の青空教室の課題ではないのでしょうか。